

令和8年度 山形村総合防災訓練住民アンケート調査報告書



令和8年9月
山形村役場 総務課

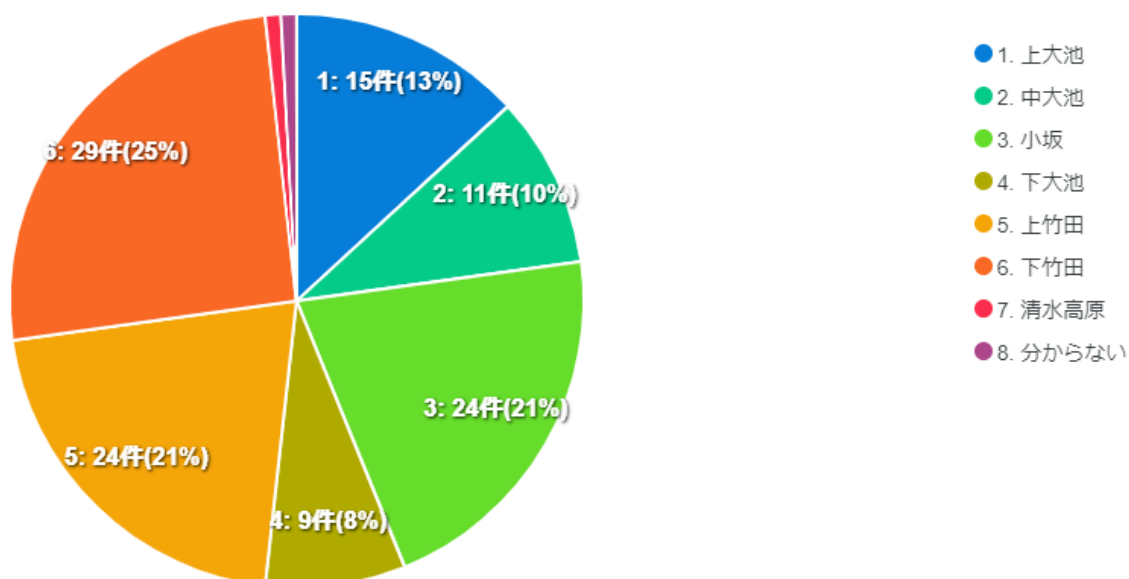
■アンケート調査概要

- 調査目的: 令和8年度訓練で出た課題・反省点を抽出し、次年度以降に反映させるため
- 調査期間: 2026-09-07～2026-09-28
- 調査手段: オンラインフォーム及び紙媒体(オンライン回答を希望しない方のみ)
- 調査周知: 村公式ホームページ、村公式 LINE 及び防災メール
- 回答数: 114 件(オンライン回答率 100%)

※自由意見については、回答内容の類似性や趣旨等を踏まえ要約したものを掲載します。

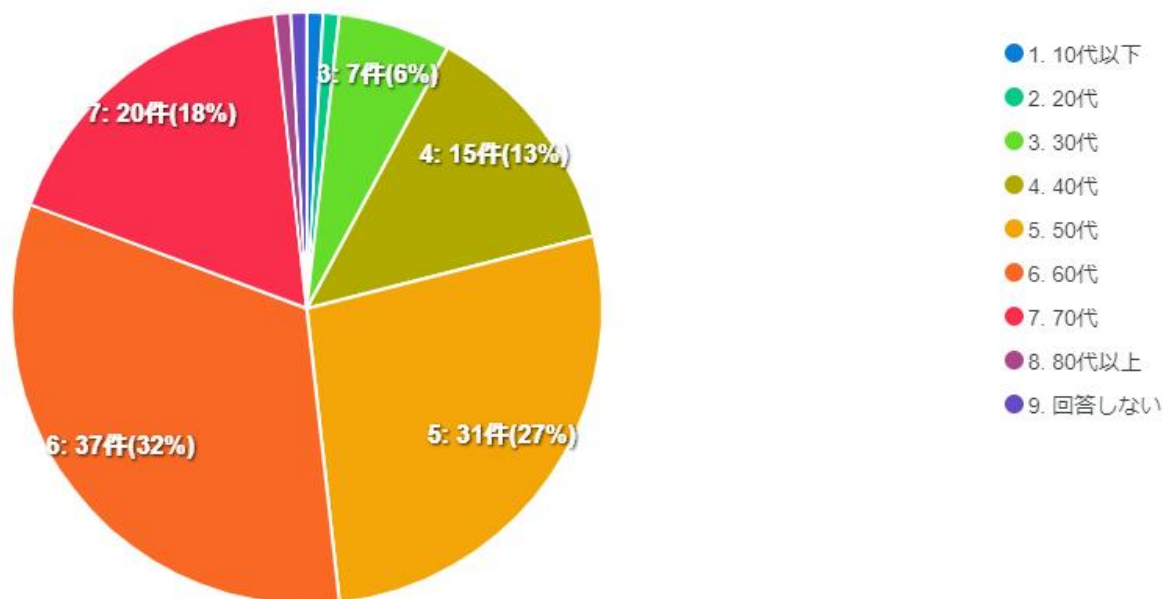
■アンケート調査項目

Q1.お住まいの地区を教えてください。



Q2.回答いただいている方の年代を教えてください。

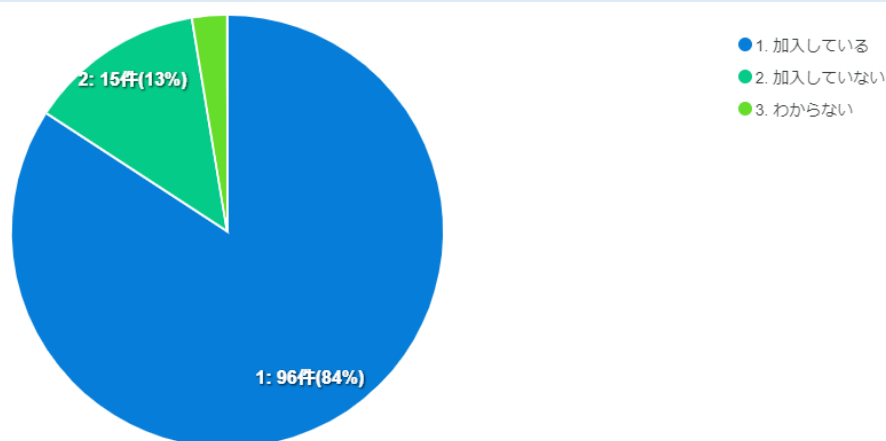
回答者クロス集計※各地区最多回答:黄色塗りつぶし



年代	上大池	中大池	小坂	下大池	上竹田	下竹田	清水高原	分からない	合計
1.10代以下	1	0	0	0	0	0	0	0	1
2.20代	0	0	0	0	0	1	0	0	1
3.30代	1	2	3	0	1	0	0	0	7
4.40代	0	1	4	2	4	4	0	0	15
5.50代	4	3	3	5	7	8	1	0	31
6.60代	7	4	9	1	9	7	0	0	37
7.70代	1	1	5	1	3	9	0	0	20
8.80代	1	0	0	0	0	0	0	0	1
9.回答しない	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	15	11	24	9	24	29	1	1	114

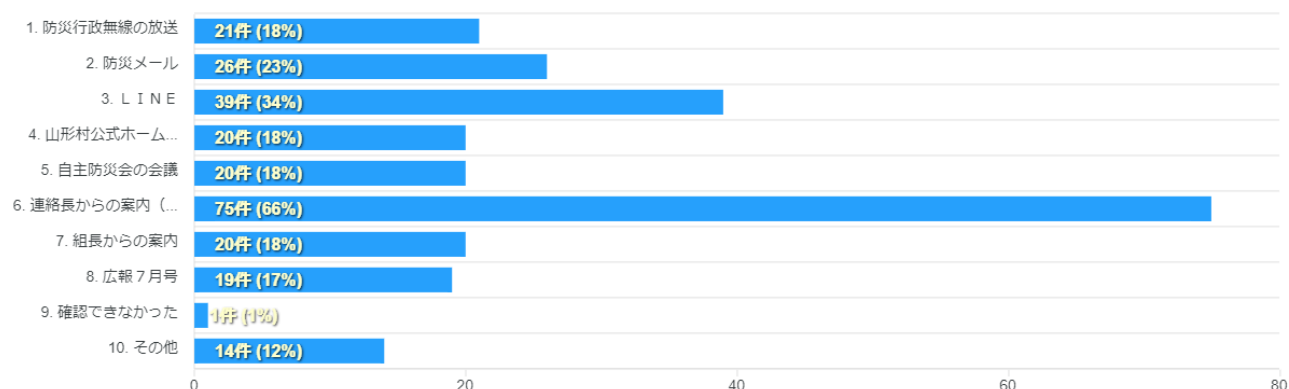
- 回答者の居住地区は「下竹田:29件」が最多。次いで「小坂及び上竹田:24件」、「上大池:15件」と続いた。
- 回答者の年代は「60代:37件」が最多。次いで「50代:31件」、「70代:20件」と続いた。上位3年代で回答の8割弱を占めた。

Q3.連絡班加入状況



- 「加入している」が96件と最多となり、回答の約8割を占めた。

Q4.訓練実施日や内容はどこで知りましたか。(複数選択可能です)

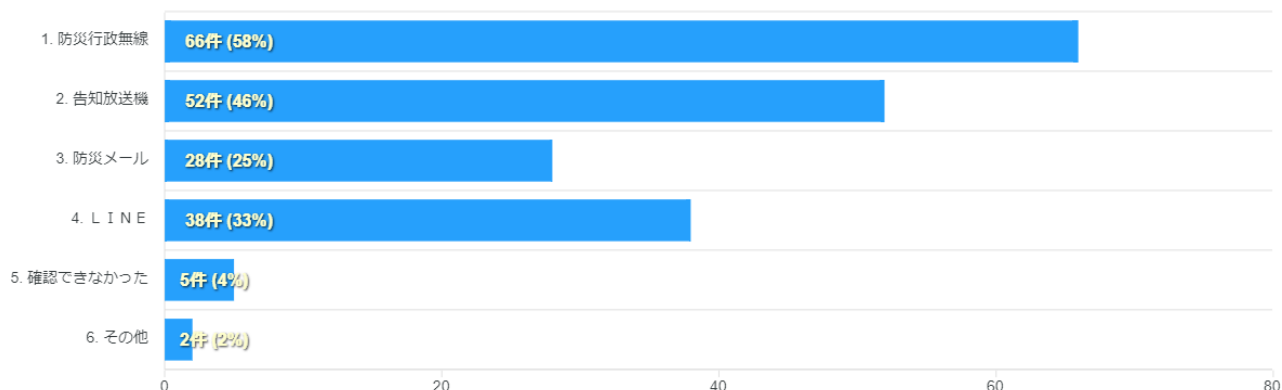


回答者クロス集計(複数選択可)※各加入状況最多回答:黄色塗りつぶし

訓練周知	加入している	加入していない	わからない	未回答	合計
1.防災行政無線の放送	16	5	0	0	21
2.防災メール	24	2	0	0	26
3.公式LINE	31	7	1	0	39
4.公式ホームページ	18	2	0	0	20
5.自主防災会の会議	20	0	0	0	20
6.連絡長からの案内(回覧板含む)	72	1	2	0	75
7.組長からの案内	19	1	0	0	20
8.広報 7月号	18	0	1	0	19
9.確認できなかった	0	1	0	0	0
10.その他	7	6	1	0	14
合計	225	25	5	0	255

- 「連絡長からの案内(回覧板含む):75 件」が最多。次いで「公式LINE:39 件」、「防災メール:26 件」と続いた。
- その他 14 件の内、連絡班未加入が 6 件で、その全回答が役場より全世帯へ配布した防災訓練の案内と回答していた。

Q5.訓練開始の合図や放送はどの手段で確認しましたか。(複数選択可能です)

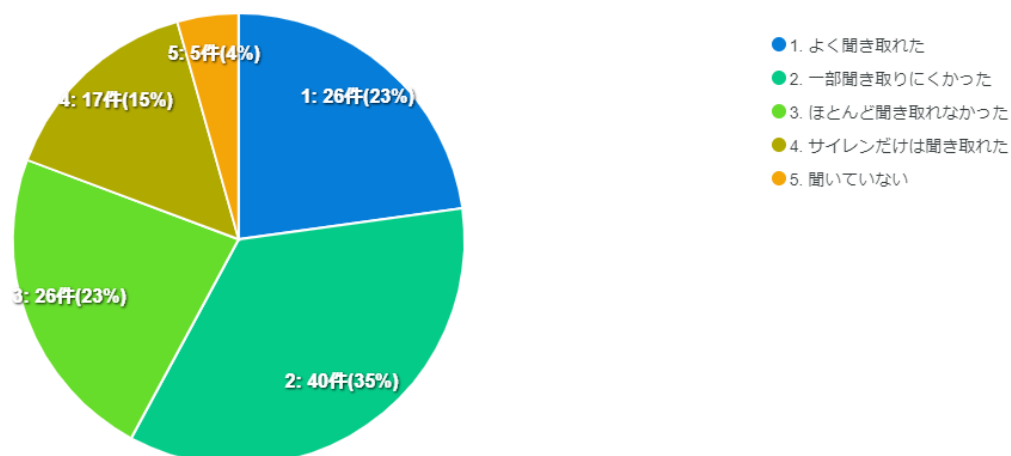


回答者クロス集計(複数選択可)※各地区最多回答:黄色塗りつぶし

訓練開始	上大池	中大池	小坂	下大池	上竹田	下竹田	清水高原	分からない	合計
1.防災行政無線	9	7	16	5	14	14	1	0	66
2.告知放送機	5	5	14	6	10	12	0	0	52
3.防災メール	6	2	6	1	8	5	0	0	28
4.公式LINE	8	3	6	3	9	8	0	1	38
5.確認できなかった	1	0	0	0	2	2	0	0	5
6.その他	1	0	0	0	0	1	0	0	2
7.未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	30	17	42	15	43	42	1	1	191

- 「防災行政無線:66 件」が最多。次いで「告知放送機:52 件」、「公式LINE:38 件」と続いた。
- 一方「確認できなかった:5件」の声もあり、既存情報伝達手段の利用促進や情報発信チャネルの多角化等を図る必要がある。
- 訓練当日、下竹田地区に設置している防災行政無線のうち、『美の里』及び『唐沢』については、設備不具合のため防災行政無線の放送が吹鳴されないトラブルが発生した。訓練後に修繕実施し、現在は不具合解消済。

Q6.防災行政無線の内容は聞き取りやすかったですか。

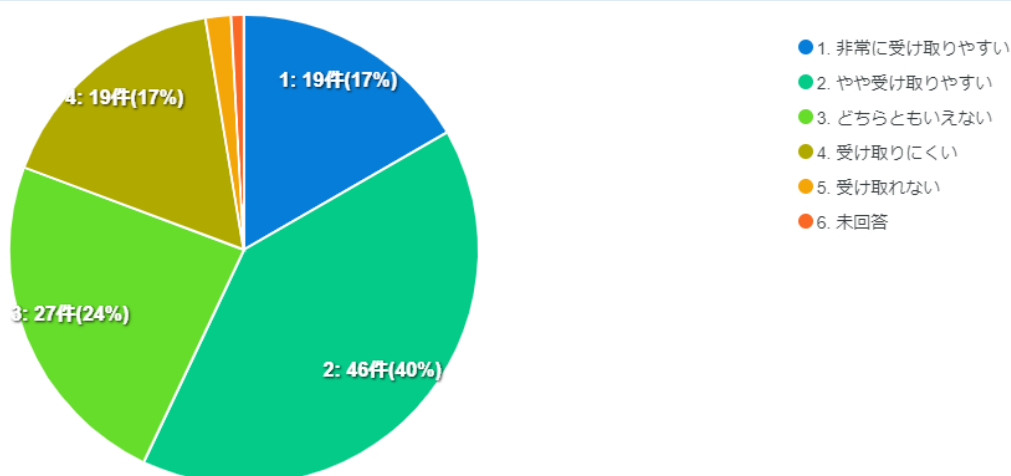


回答者クロス集計(複数選択可)※各地区最多回答:黄色塗りつぶし

訓練開始	上大池	中大池	小坂	下大池	上竹田	下竹田	清水高原	分からない	合計
1.よく聞き取れた	6	3	3	1	8	5	0	0	26
2.一部聞き取りにくかった	3	3	14	6	6	7	0	1	40
3.ほとんど聞き取れなかった	1	1	6	1	6	11	0	0	26
4.サイレンだけは聞き取れた	4	4	1	1	3	3	1	0	17
5.聞いていない	1	0	0	0	1	3	0	0	5
合計	15	11	24	9	24	29	1	1	114

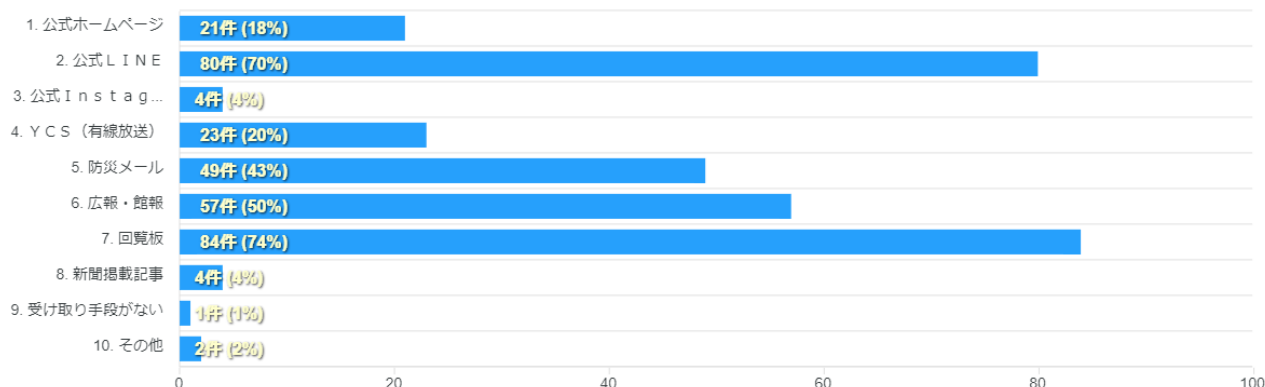
- 「一部聞き取りにくかった:40件」が最多。次いで「よく聞き取れた及びほとんど聞き取れなかった:26件」、「サイレンだけは聞き取れた:17件」と続いた。
- 下竹田地区の「ほとんど聞き取れなかった:11件」については、前述の防災無線不具合の状況と思われるが、正確・即応的な情報伝達が求められる防災行政無線の内容が聞き取りにくい状況が顕在化している。

Q7.訓練含め、村からのお知らせ・情報は受け取りやすいですか。



- 「やや受け取りやすい:40%」と最多。次いで「どちらともいえない:24%」、「非常に受け取りやすい及び受け取りにくい:17%」と続いた。

Q8.訓練含め、村からのお知らせ・情報の受け取り手段を教えてください。 (複数選択可能です)



回答者クロス集計(複数選択可)※各受け取りやすさ最多回答:黄色塗りつぶし

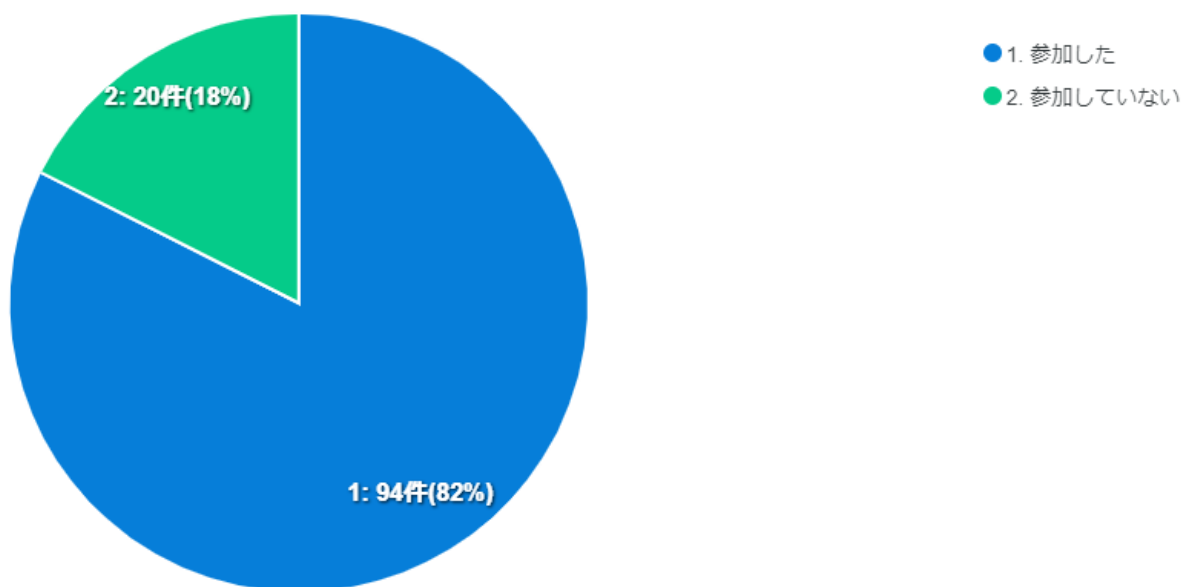
情報受け取り手段	非常に受け取りやすい	やや受け取りやすい	どちらともいえない	受け取りにくい	受け取れない/未回答	合計
1.公式ホームページ	3	8	6	4	0	21
2.公式LINE	15	29	18	15	3	80
3.公式 Instagram	2	1	0	1	0	4
4.YCS(有線放送)	6	10	4	2	1	23
5.防災メール	12	19	10	8	0	49
6.広報・館報	12	20	17	7	1	57
7.回覧板	15	32	22	13	2	84
8.新聞掲載記事	1	2	1	0	0	4
9.受け取り手段がない	0	0	0	1	0	1
10.その他	1	0	0	1	0	2
合計	67	121	78	52	7	325
受け取りやすさ回答数	19	46	27	19	3	114
(参考)受け取り手段選択数平均 【合計÷受け取りやすさ回答数】 小数点以下第3位切り捨て	3.52	2.63	2.88	2.73	2.33	2.85

- 「回覧板:84件」が最多。次いで「公式LINE:80件」、「広報・館報:57件」と続いた。
- 電子媒体での情報収集の比重が多くなってきているが、従来どおりの紙媒体である「回覧板」や「広報・館報」での受け取りの比重も多く、紙媒体:電子媒体を組み合わせた情報伝達が必要となる。
- 調査回答の絶対数が少ないため参考数値となるが、受け取り手段選択数平均を比較すると、情報の受け取りやすさが高い回答の方が、受け取り手段の選択数が多くなる傾向が見て取れた。

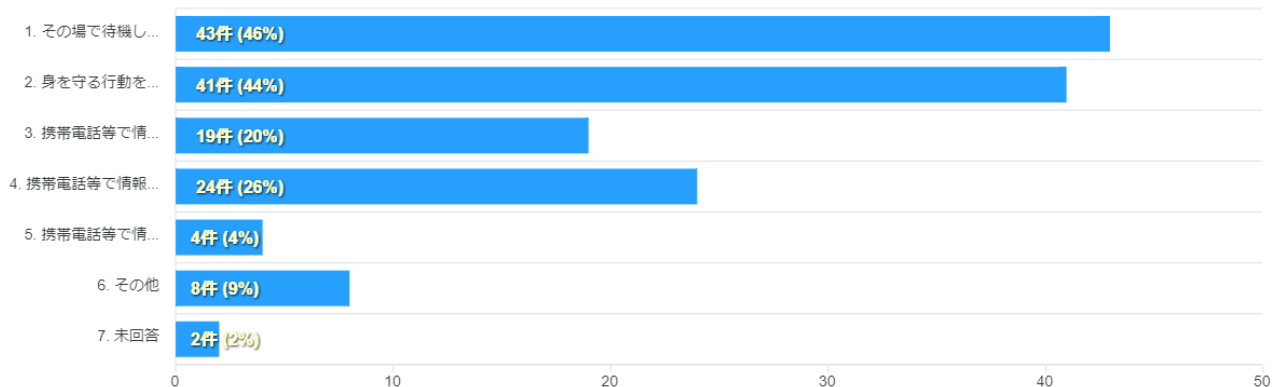
(参考)2026-9-28 現在(カッコ内は 2025-10-10 現在)

- 公式LINEお友達登録者数:3,008 アカウント(2,418 アカウント)+590
- 公式 Instagram フォロワー数:1,338 フォロワー(1,074 フォロワー)+264
- 防災メール登録総数:1,430 アドレス(1,332 アドレス)+98

Q9.9月6日(日)の総合防災訓練には参加しましたか。

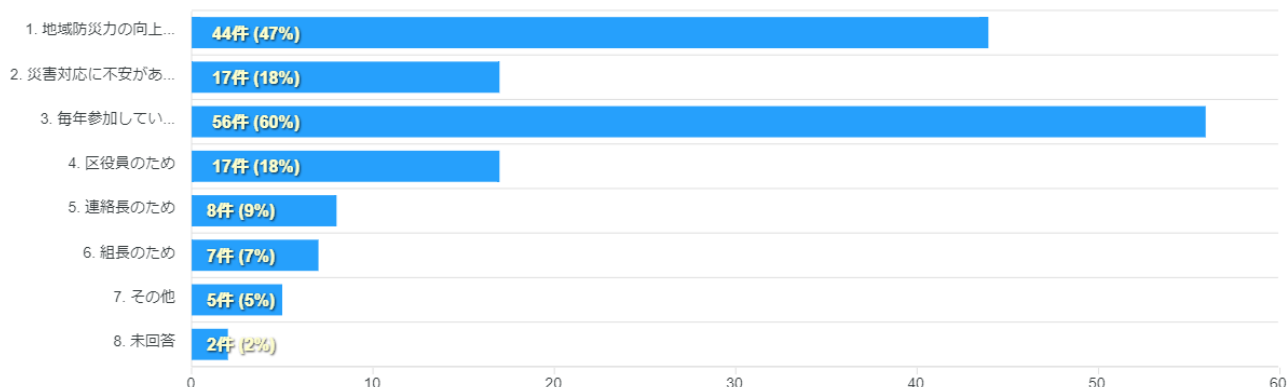


Q10.【参加した方のみ】訓練開始(発災時)の様子について当てはまるものにチェックしてください。(複数選択可能です。令和8年度は新規訓練として、身を守る3つのアクションを促すシェイクアウト訓練を実施したほか、避難所と地域の災害発生箇所を見える化する未来共生災害救援マップ(災救マップ)を導入しました。)



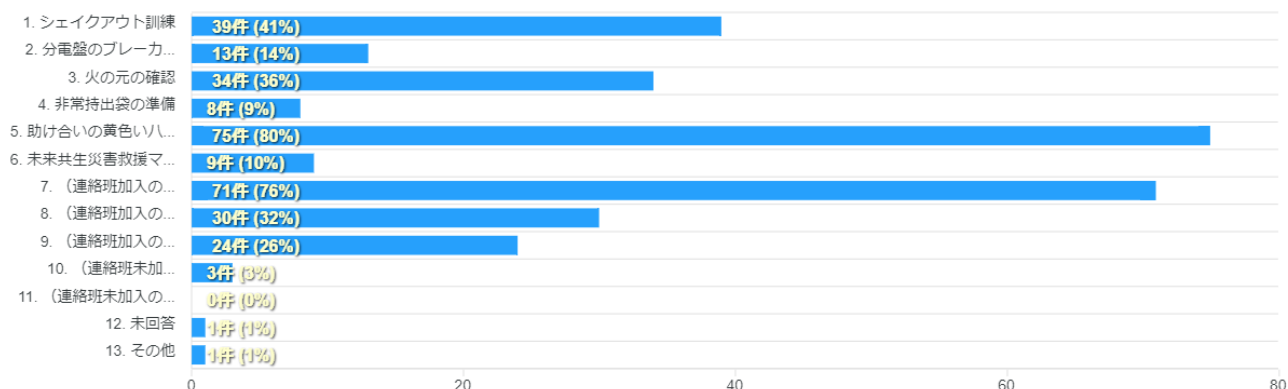
- 「その場で待機していた:46%」で最多。次いで「身を守る行動を実施していた:44%」、「携帯電話等で情報を確認していた(公式 LINE):26%」と続いた。
- 今年度は、身を守る3つのアクションを促すシェイクアウト訓練を実施したことから、「その場で待機していた」と回答した比率が昨年の70%から大幅に減少し、「身を守る行動を実施していた」と回答した比率が昨年の14%から上昇した。
- また、災害時の避難所と地域の被災状況等を確認することができる『未来共生災害救援マップ(通称:災救マップ)』を導入したことから、「携帯電話等で情報を確認していた」の回答も昨年の7パーセントから上昇した。ただし、災救マップに限っていえば全体比率の4%であるため、今後も引き続き周知を行い、平時・有事問わず利活用できるシステムとして機能させていく必要がある。

Q11.【参加した方のみ】総合防災訓練に参加した理由は何ですか。(複数選択可能です)



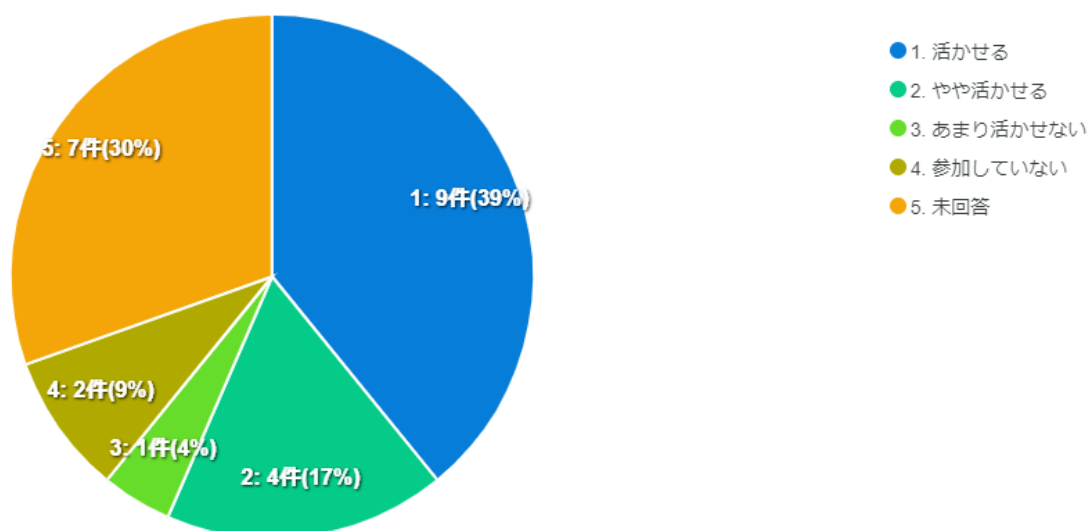
- 「毎年参加しているため：60%」が最多。次いで「地域防災力の向上のため：47%」、「災害対応に不安があるため及び区役員のため：18%」と続いた。
- 近年の災害激甚化・頻発化も影響してか、「災害対応に不安があるため」の回答比率が昨年の11%から上昇している。

Q12.【参加した方のみ】実践・参加した訓練内容を選択してください。



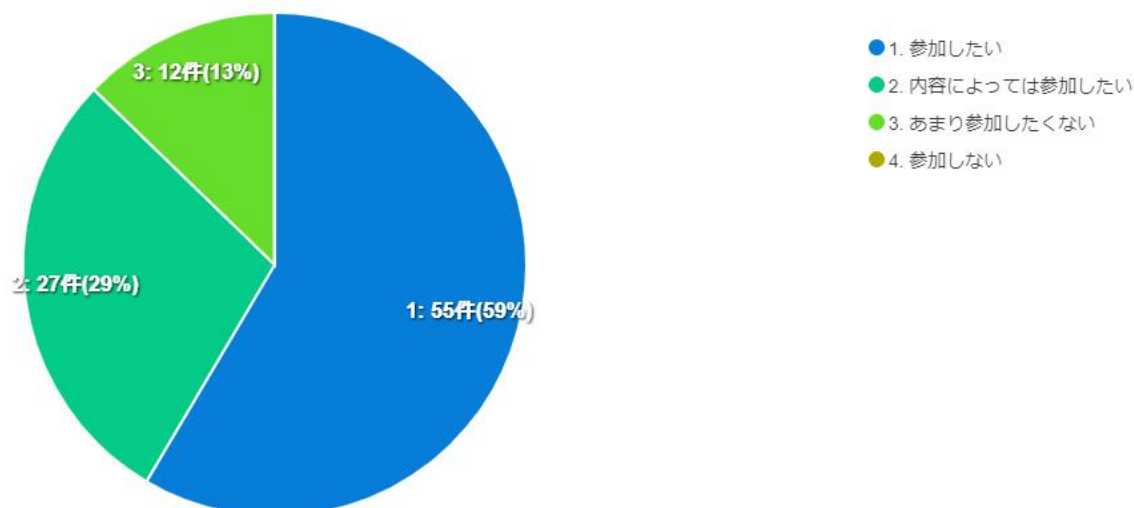
- 「助け合いの黄色いハンカチの掲揚：80%」が最多。次いで「(連絡班加入の方)一次避難場所(集会所等)への集合：76%」、「シェイクアウト訓練：41%」と続いた。
- 今年新規で導入したハンカチの掲揚及び新規訓練のシェイクアウト訓練への参加が多い一方で、自主防災会の訓練会場である公民館・公会堂等への集合及び自主防災会主催訓練への参加率が低い傾向であり、一次避難からの次のアクションに繋げる点が課題として表面化した。

Q13.【二次避難場所まで行かれた方のみ】自主防災会主催の訓練(災害時応急手当法、初期消火、防災講座等)は、今後の防災対策に活かそうですか。
(地区によって内容が異なりますので、ご了承ください。)



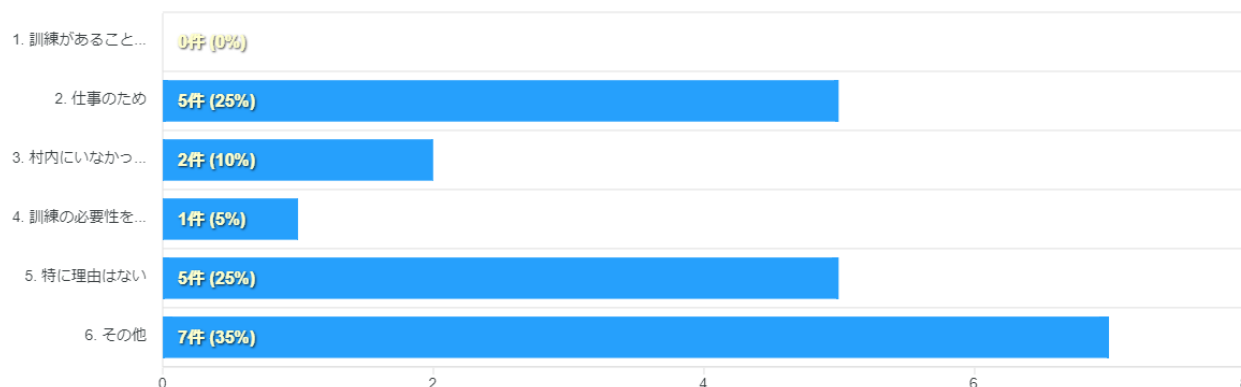
- 「活かせる:39%」と最多。次いで「未回答:30%」、「やや活かせる:17%」と続いた。
- 自主防災会主催の訓練を「活かせる」、「やや活かせる」と回答する割合が5割強に対して、前述で示したように、一次避難場所(集会所等)まで参集して帰路についてしまう方が過半数以上いるという状況であり、いかにして自主防災会主催の訓練に参加してもらえるかが課題となっている。

Q14.今後も同様の訓練に参加したいですか。



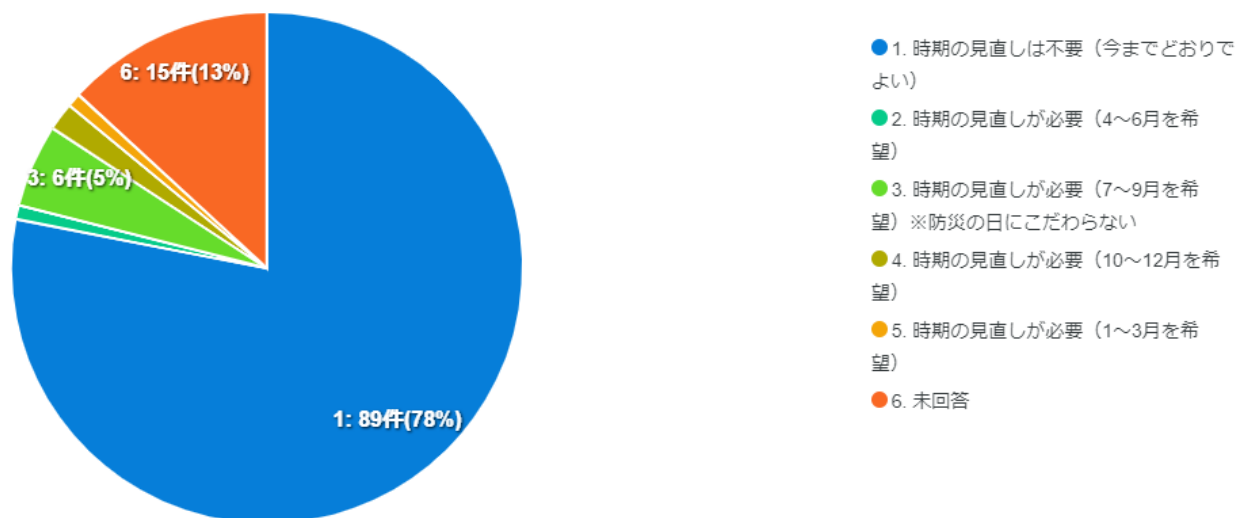
- 「参加したい:55%」が最多。次いで「内容によっては参加したい:29%」、「あまり参加したくない:13%」と続いた。

Q15.【参加しなかった方のみ】訓練に参加しなかった理由を教えてください。 (複数選択可能です)



- 「その他:35%」が最多。次いで「仕事のため及び特に理由はない:25%」、「村内にいなかったため:13%」と続いた。
- その他の意見としては、日時を把握できていなかったことや、連絡班未加入で近隣の方と交流がなく行きにくいといった意見があげられた。連絡班未加入であっても訓練に参加しやすい環境構築や、特に理由はなく参加しない方に向けた行動へ繋がる参加勧奨・動機付け等が課題である。

Q16.訓練に参加しやすくなるには、どのような工夫が必要だと思いますか。 例年、『防災の日』前後で開催しています。



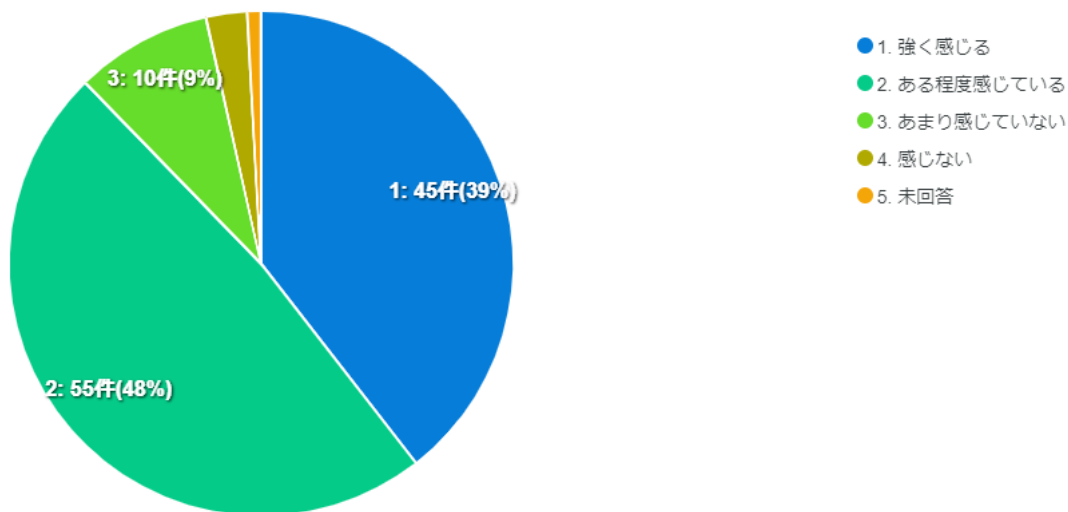
- 「実施の見直しは不要(今までどおりでよい):78%」で最多。次いで「未回答:13%」、「時期の見直しが必要(7～9月を希望)※防災の日にこだわらない:5%」と続いた。

その他工夫や変化が必要な部分がありましたらご記入ください。(自由意見要約)

- 開催時期は暑さや農繁期を避け、地区の在宅状況も考慮して検討してほしい。季節ごとに複数回行う意見もある。
- 連絡班への加入状況にかかわらず情報を共有し、LINE・電話・メール・回覧板などで不在者や就業者も安否確認に参加できるようにしてほしい。
- 歩行が難しい高齢者の避難支援や、連絡班の体制の見直しを求める。
- 公民館等での集合・安否確認集約待ちを見直し、実際の災害に即した、負担の少ない訓練にしてほしい。

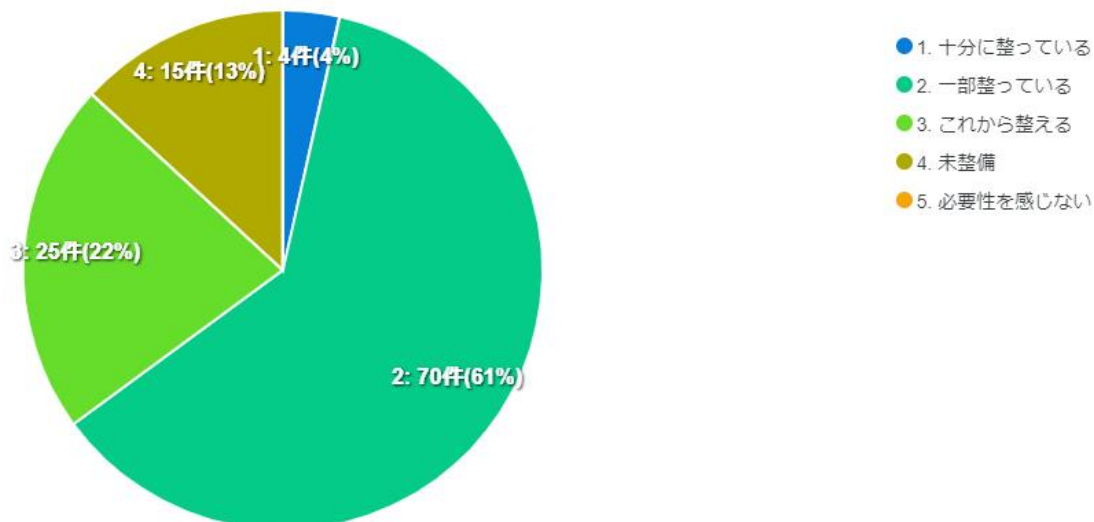
- 子ども・女性・外国人も参加しやすいよう、クイズや展示などを取り入れ、身近な役員(連絡長)からも参加を呼びかけてほしい。
- 防災行政無線放送の音量、避難場所の案内、集合時の報告先の表示を改善してほしい。

Q17.連絡班・地域での助け合い(共助)の必要性は感じますか。



- 「ある程度感じている:48%」が最多。次いで「強く感じる:39%」、「あまり感じていない:9%」と続いた。

Q18.ご家庭の備蓄を始め、緊急時の連絡手段・避難先の情報共有等の準備は進んでいますか。



- 「一部整っている:61%」が最多。次いで「これから整える:22%」、「未整備:13%」と続いた。

Q19.その他訓練全体を通しての課題や反省点、次年度への改善点があれば記入してください。(自由意見要約)

- 防災行政無線が聞こえない、聞き取れない地域があり、設備点検やスピーカーの配置見直し、別の情報伝達手段の確保が必要。
- 訓練の目的や当日の行動、避難場所への移動、報告用紙の記入・提出方法を、分かりやすく事前に知らせてほしい。
- 黄色いハンカチを掲げる意味や、その後の避難行動、未揭示世帯の確認方法を明確にしてほしい。
- 連絡班の加入・未加入にかかわらず、全世帯に情報が届き、安否確認と訓練参加ができる仕組みが必要。
- 連絡班長間の引継ぎや役員への負担を見直し、安否確認の集計・報告を簡単にしてほしい。
- 無線が通じない場合も想定し、安否確認結果を報告する手段を複数用意してほしい。
- 災害の種類に応じて避難場所・避難経路の安全性や収容人数を点検し、必要に応じて見直してほしい。
- 高齢者や障害のある方の避難・トイレ利用の支援、ペット同行避難の方法を具体的に示してほしい。
- 飲料水・生活用水の確保、給水体制、簡易トイレなど、避難生活に必要な備えを確認・充実してほしい。
- 自宅で身を守ってから避難する流れを基本に、大雨・洪水なども想定した、住民が参加しやすい実践的な訓練にしてほしい。

■アンケート調査全体の振り返り

1. 防災行政無線の聞き取りにくさ

- 放送を聞き取れなかった回答が複数あり、下竹田区の修繕済設備不具合とは別に、地区ごとの聞こえ方を確認し、伝達手段の併用を検討する必要がある。

2. 連絡班未加入世帯への情報共有と参加案内

- 未加入世帯から訓練の流れや安否確認の方法が分かりにくいとの意見があり、加入状況にかかわらず必要な情報を受け取り、参加できる案内方法の整理が求められる。

3. 一次避難から自主防災会の訓練へのつながり

- 助け合い黄色いハンカチの掲揚や一次避難には取り組んでいる一方、その後の集合・訓練への参加が少ない傾向があり、当日の行動順序と各訓練の目的を分かりやすく示す必要がある。

4. 安否確認・報告方法の分かりにくさ

- ハンカチ未掲揚世帯の確認、報告用紙の書き方や報告先に疑問が寄せられており、役割分担と通信が使えない場合を含む報告手順の整理が必要。

5. 多様な住民が参加・避難できる訓練への見直し

- 高齢者や障害のある方、子ども、外国人、ペットを飼う方などを想定した意見があり、避難経路・避難場所の安全性も含めた実効性のある訓練見直しが必要。